

## アメリカにおけるクレジット・ユニオンの経営側面 ——組合員利益をめざした金融活動——

大阪市立大学大学院 森中 由貴

現在から約 100 年前の 1909 年に初めてアメリカに誕生したクレジット・ユニオンは、自らの組合員に対して、商業銀行における預金に似たシェアを受け入れるとともに貸出を中心に行う協同組織形態の金融機関である。現在、アメリカでは、国民の 3 分の 1 以上がクレジット・ユニオンの組合員となっており、非常にポピュラーな金融機関の 1 つとなっている。クレジット・ユニオンの組合員となるためには、個々のクレジット・ユニオンが有するコモン・ボンドをとともにすること、そして、最低限のシェアが必要とされる。そして、ひとたび組合員となると、そのシェア量や組合における仕事量に関係なく、1 人 1 票の投票権が与えられ、それをもって組合の経営に参加することができる。クレジット・ユニオンの目的は、貯蓄習慣がなく貨幣経済に不慣れな中低所得層の人々に儉約を浸透させ、将来的な目的・建設的な目的のために、金融サービスを利用する機会を平等に与えるということであり、また、そうした人々を高利貸しから守るということである。クレジット・ユニオンの経営は、助け合いの相互扶助の精神に基づき、多くのボランティア職員や無報酬の役員らによって経営がなされている。さらに、クレジット・ユニオンは、「共通の絆（コモン・ボンド）」という職場や団体、コミュニティなど共通の繋がりを基礎とする組織である。そして、このコモン・ボンドの存在こそが、他の金融組織と大きく異なる部分であり、クレジット・ユニオンをクレジット・ユニオンたらしめるものである。

本報告では、クレジット・ユニオンの分布傾向や商業銀行との比較を通じて、以下の 3 つを整理する。

1. アメリカのクレジット・ユニオンは、州認可と連邦認可という二元的な認可形態を有し、現在その数は連邦認可が多い。地理的分布では、クレジット・ユニオンと小規模商業銀行（コミュニティ・バンク）との間に明確な傾向が見られる。
2. 1970 年代以降、クレジット・ユニオン数は、減少傾向にあるものの組合員数は継続的に増加している。規模を商業銀行と比較すると平均的に小規模であるが、その経営はより規模の大きい方がより安定的である。この規模の拡大で、クレジット・ユニオンは、組合員が必要とするサービスをさらに幅広く提供することを可能にしている。
3. クレジット・ユニオンは、自らを安定的に存続させ、組合員やコミュニティの立場に立って経営を行うことで、彼らに対するコミットメント（社会的役割・経済的役割）を守り続けている。